

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	愛の木放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日 ～ 令和7年2月21日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日 ～ 令和7年2月14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基準に従った環境・体制整備に関して基準を守っている。	賃貸物件での改修が難しい中、代替として手すりやスロープを使用し、安全に配慮している。	今後必要に応じて設備投資や代替手段の検討を行う。
2	異なる専門職が協力し、個別支援や専門的なサポートを行っている。	専門職間で定期的に情報共有し、個別支援計画を作成、支援を実施している。	多職種の連携を強化し、定期的な合同研修を実施してスキル向上を目指していく。
3	子どもたちに自己決定の機会を提供し、自己管理能力を育む取り組みが保護者にも評価されている。	子どもたちが自分たちで決め、実行に移せるように促し、相互作用の中で成長を促進している。	子どもたちにプロジェクト型学習や役割分担を通じて、意思決定力と協力を育む活動を提供

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者が活動内容を知りにくい、紙ベースの情報提供では不十分との意見がある。オンラインシステム導入の希望あり。	保護者に活動内容が伝わりにくいという点で、情報共有方法の改善が求められている。	保護者が活動情報にアクセスしやすいよう、オンライン完結のシステムやツールを検討、段階的に導入する。
2	施設の賃貸という制約があり物理的な改修が難しいため、今後より良い環境整備が困難になる可能性がある。	賃貸物件での改修が難しく、施設の安全性や使い勝手に限界がある。	必要に応じて物理的な制約を克服するための設備投資や代替手段の検討が必要。
3	高学年の子どもたちが若干退屈してしまうことがあるとの指摘があり活動内容に工夫が必要。	高学年の子どもたちに対して、より興味を引く活動の提供が求められている。	退屈感を感じさせないように、高学年向けの興味を引く活動やプログラムの開発が必要。下級生との関わりも積極的に促していく。